

森の名手シリーズ 48



木地師

木からの恵み

名人 小椋 東一 (74)
岐阜県中津川市

聞き手 岡田 彩希理
愛知県立稲沢高等学校1年
平成28年取材

1. 種類や作り方によって、扱い方が変わる木

木地師というのは、お椀からお盆、丸い物ならほとんど木で作る。そんな職業だね。一番最初は、やっぱりみんな作ることを覚えてそれから山に入ったね。俺たちの代は親について山へ行つて、木を覚えただけだね。

俺たちの使う木は、20種類くらいかな。板に櫓に栓にきわだ。主にそれだね。かななの刃が長いのは、深いのを作るときに使う。短いのは、細かいのをやるときに手先が狂わぬように。長いと、どうしてもぶれるのよ。だから、木によっても使う道具は変わるね。

木でもさ、木を横から刈ってみると、なんでもないおとなしい木は、ただ年輪があるだけだし、不思議な曲がり方をする木は、絶対に目があもしろいの。こういうのは、切り口でわかるの。

ていくの。素手でやると波打っちゃう時もあるから、ちゃんと水平になつてくるか確かめて、見るのね。

次は仕上げだね。今度はさ、型を使うの。型を作業台の歯に打ち付けるの。だから、型にちゃんと合はるように寸法を揃えとくと、この時に困るの。合わなかつたら型を替えないかんもんで。削り終わってから、打ち付けたところを見ると、打ち付けた跡がまだ残つとるのよ。だからさ、削っていくの。これであととは色付けするの。

途中でやすりをかけるんだけど、やすりは番号が大きくなるほど細くなるの。やすする時は番号の小さい順にやすするの。そんで、漆塗る時はいつも使ってるやすりより、もう1つ細かい320番まで使うの。やすりは、業者に頼んで切つてもらつて。うまく切れんと、細かいところに使う時に角にならんから。昔は分厚いのが良いって言ってたけど、今は軽い方が良いって、薄くしないと売れんの。

ねりばち、そはを打つやつね。1メートルくらい作る時は、大きな板回す時にブーンって音が鳴るのが番怖かつたね。頭の上で回つとるもんで。スピード落とさんと、遠心力で飛んで行っちゃうもんで、はじめはゆっくりやつて、回つてくる時にぶ



ねりばち、そはを打つやつね。1メートルくらい作る時は、大きな板回す時にブーンって音が鳴るのが番怖かつたね。頭の上で回つとるもんで。スピード落とさんと、遠心力で飛んで行っちゃうもんで、はじめはゆっくりやつて、回つてくる時にぶ

「森の名手名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもつてその業を極め、他の模範となつている達人で、毎年、全国で約100名が認定されています。岐阜県においては、現在、51名の「森の名手名人」が認定されています。

今度は生乾きにしようと、木が傷んじやうもんで、難しいところ。

2. 資材の調達

今はみんな木を切るときはチェーンソーを使つてるけど、昔は大きな鋸だつたの。そんで、山から取つてきた木を、背中にしょってくもんで、くぼみを作つて軽くしてきたの。

木を倒す時にはね、倒れる反対側に逃げるの。近くにおると危ないもんで。大きな木だと、6メートル飛んでくるんだに。それで、山に平らなところはないだろ？だから、石があつたりして、そこにあたると木が裂けちゃうけど、もし木に枝があつたら、枝があるところをクッションにして倒すの。他に大きな木があつたりすると、引つかつちゃうだろ？細い木ならいいけど大きな木だつたら、木と木の間に倒すの。その都度によつて、木を切つてあげないかね。鋸を入れる前に高いところを見て、どこに倒したらいいかな、波打つたところは無いかな、つてそういうところをみるの。せつかくすい木を見つけても、傷が入つちゃえば製品にならんからね。

3. 木で作る

削る前にさ、木に水を付けるのは、木が割れないようにと、持ちが良くなるの。木はさ、生の時には丸かいて作つてあるわけよ。でも、乾燥すると、横が縮んで縦に伸びるんだよ。小さいのはその狂いは少ないけども…。

削りながら、長さを測つたりすると、何回も定規をあてなかんだろ。でも、釘を刺した板を、回しとる時にあてて筋つけちゃえば1回で決まっちゃうな。それから、水平を見るわけね。それで、波があつたら、かなで取るの。次に、磨い

6. これからについて

店から注文があつたり、問屋から注文があつたら作つて、多い日は、80枚くらいだった。今は1日40枚くらいしか作らな。忙しい時には最低10時間。朝7時半から晩の7時半近くまで。毎日同じことをしてるけどさ、今まで仕事は飽きるなんてことは絶対になかった。今はあんまり仕事がないけど、ある時はもう楽しみで楽しみで。仕事は、まだちよつとやれると思う。まだちよつとやりたい。みんな子供がもうやめれやめれつて言うまでは続けたいね。まだだやつてくれつて持つて来るし。まだ見捨てられとらん。

名人 小椋 東一さんのプロフィール

生年月日・昭和17年1月1日生まれ

職業・木地師

長野県南木曾町保神出身。

昭和32年に大蔵木工所に入社し、木地師としての修業を始める。

現在は、中津川市千旦林にある自宅工房で、口ク口挽きによりお盆や茶びつなどを作る木地師として作業している。

幼い頃から木と触れ合い、木の種類ごとの性質を見極め、手作りによるカンナなど様々な道具を自分で作り、数多くの作品を作り出している。平成19年に卓越技能者として岐阜県知事表彰を受けた。

木地師の道具の使い方や子どもたちの口ク口挽き体験指導等、次世代を担う人々への指導も行っている。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。

【森の名手・名人編集担当 公益社団法人 岐阜県緑化推進委員会 専務理事 黒崎隆司】